

臨床歯科医が行う再生療法の現在と未来

補綴臨床 別冊 | PRACTICE IN PROSTHODONTICS
EXTRA ISSUE

歯科臨床における 再生療法

上田秀朗／編

●近年、インプラントが広く用いられるようになって、補綴主導のいわゆる「トップダウンリートメント」という、歯槽骨や歯肉をより望ましい条件に整えることで、望ましい補綴修復を行うという方向性が打ち出され、また患者さんのより審美的、機能的にというニーズに応えるためにも、組織再生が注目されています。

●本別冊では、まず基礎編として、研究者の立場から、再生の定義、再生療法の現状・未来について、再生医療の目指すべき方向を示し、臨床編では、臨床の場で行われているさまざまな再生療法について、第一線に立つ臨床医が紹介しています。

●また、エンドにからむ大きな骨吸収像の改善、歯周治療のパートの歯槽骨の治癒過程など、従来の治療法を「再生」という視点でとらえ、各種の「組織再生」を目的とする多彩な対応法について、それぞれの術式と効果を多くの臨床例を呈示して示しています。

A4変判／168頁

オールカラー

定価6,300円

(本体6,000円+税5%)

C O N T E N T S

主な目次

1章 基礎編

- ① 基礎から見た再生の概念とその要件
- ② 歯科における再生療法の現状
- ③ 医科における再生療法の現在・未来 歯科への期待
- ④ 再生療法で用いられる材料

2章 臨床編 エンド・ペリオ領域の再生療法

1. エンド

- ① 根尖性歯周組織炎の難症例
- ② 根尖性歯周組織炎と辺縁性歯周組織炎との相違点

2. ペリオ

- ① 臨床における再生療法の概念
- ② 再生療法における臨床的評価
- ③ 歯槽骨再生療法の適応症
- ④ 欠損形態を考慮した対処法
- ⑤ 再生療法における一次性創傷治癒の概念
- ⑥ 歯周組織再生療法の実際
 1. 切開線の設定とその方法
 2. エムドゲイン
 3. 遮断膜
 4. 骨補填材
 5. 骨膜グラフト
 6. 歯間部歯槽骨面露出術
 7. 縫合
 8. レーザー

3章 臨床編 硬組織・軟組織の増大

- ① 顎堤吸収における骨造成の可能性について
- ② 審美修復・軟組織の増大

4章 臨床編 再生療法の長期経過

咬合の安定の重要性

医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL.03-5395-7630 FAX.03-5395-7633 <http://www.ishiyaku.co.jp/>